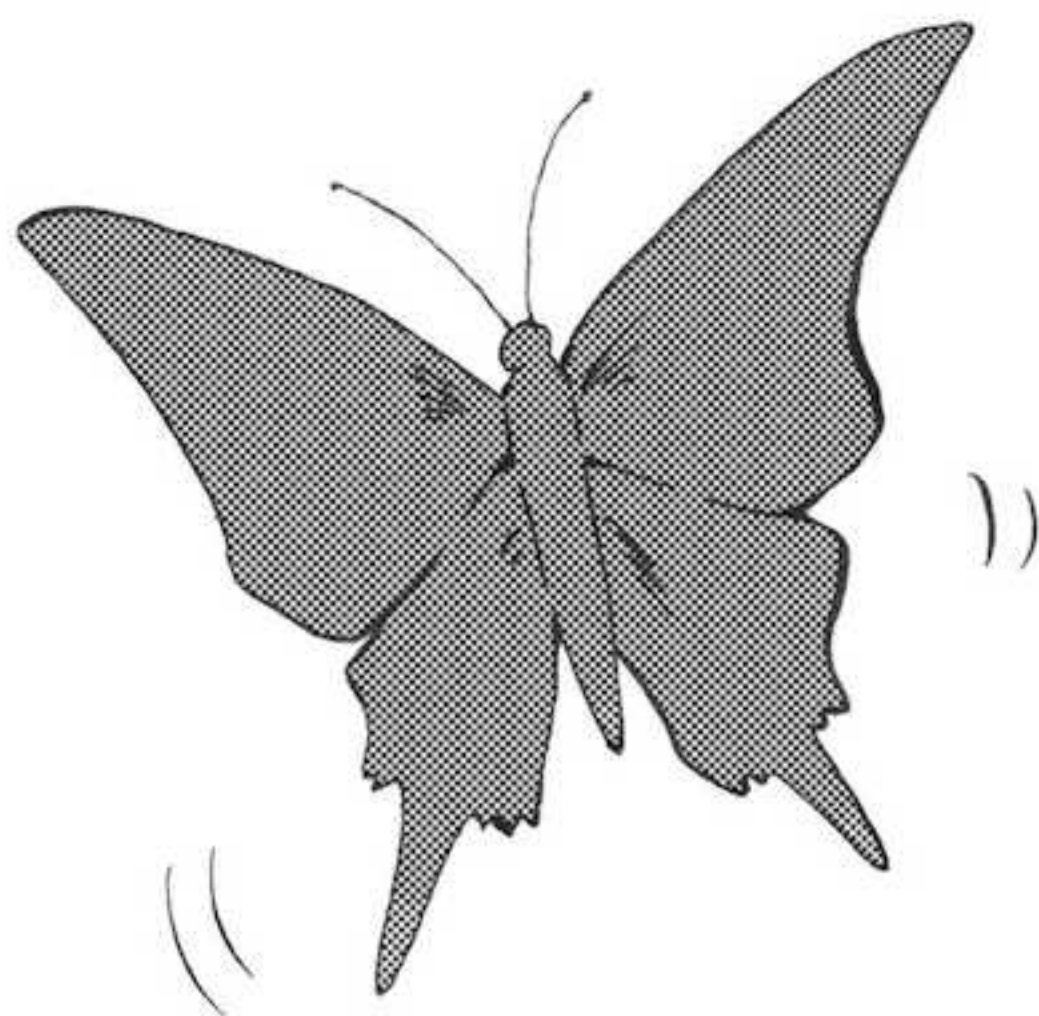




桜
と
蝶
と
貴
女

幼い頃から
見えていたソレは



死が近い人の
傍を舞っていた

やがてソレは数を増し
人は死を迎える



死を迎える場所は
決まって皆、西行桜の下

何故だろうか
父もそうだったが
西行桜にそれほど惹かれると
いうのだろうか



そしてソレの
次の標的は





私



つて!
こんなところに
突っ立ってん
じゃねえぞ
ガキが!



ならばどうする?
どうすることも出来ない
私はただ
死を迎えるのみなのだ
あの西行桜の下で

だんな
アレ、
西行寺の娘ですぜ

あーん？
そんなの
関係ねえだろうが

何故だろうか


私のソレが
あの男について行くのは

理由は
数日後に
わかった


次に
西行桜の下で死んだのが
あの男であったから

私は
初めて理解した

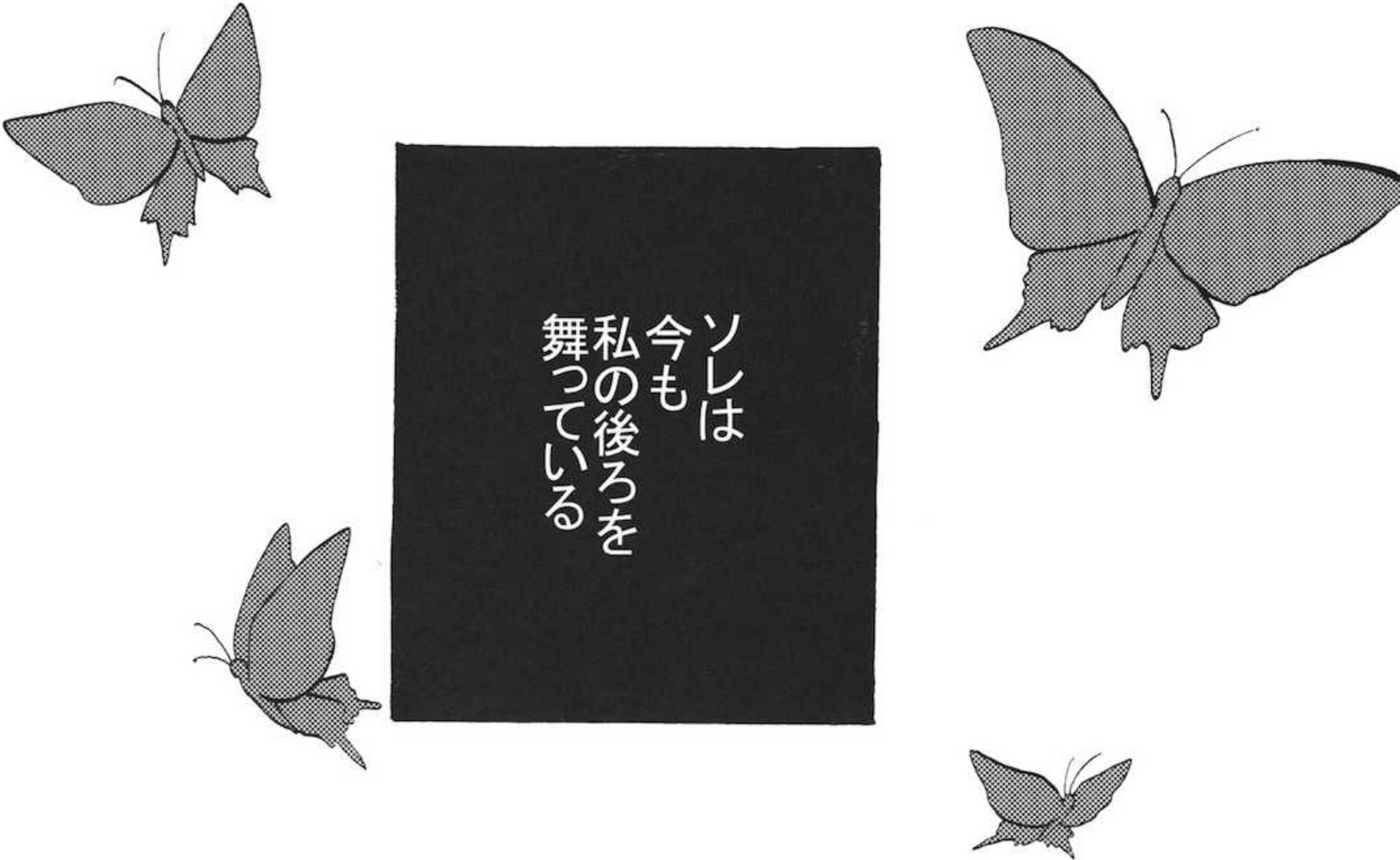
自分が
ソレの本体であると

A close-up illustration of a character with long, wavy hair. The character's eyes are closed, and their right hand is held up, palm facing forward, with fingers slightly spread. The background is dark.

そして
西行桜から
力が入り込んでくる
のもわかる

A white rectangular text box on a black background.

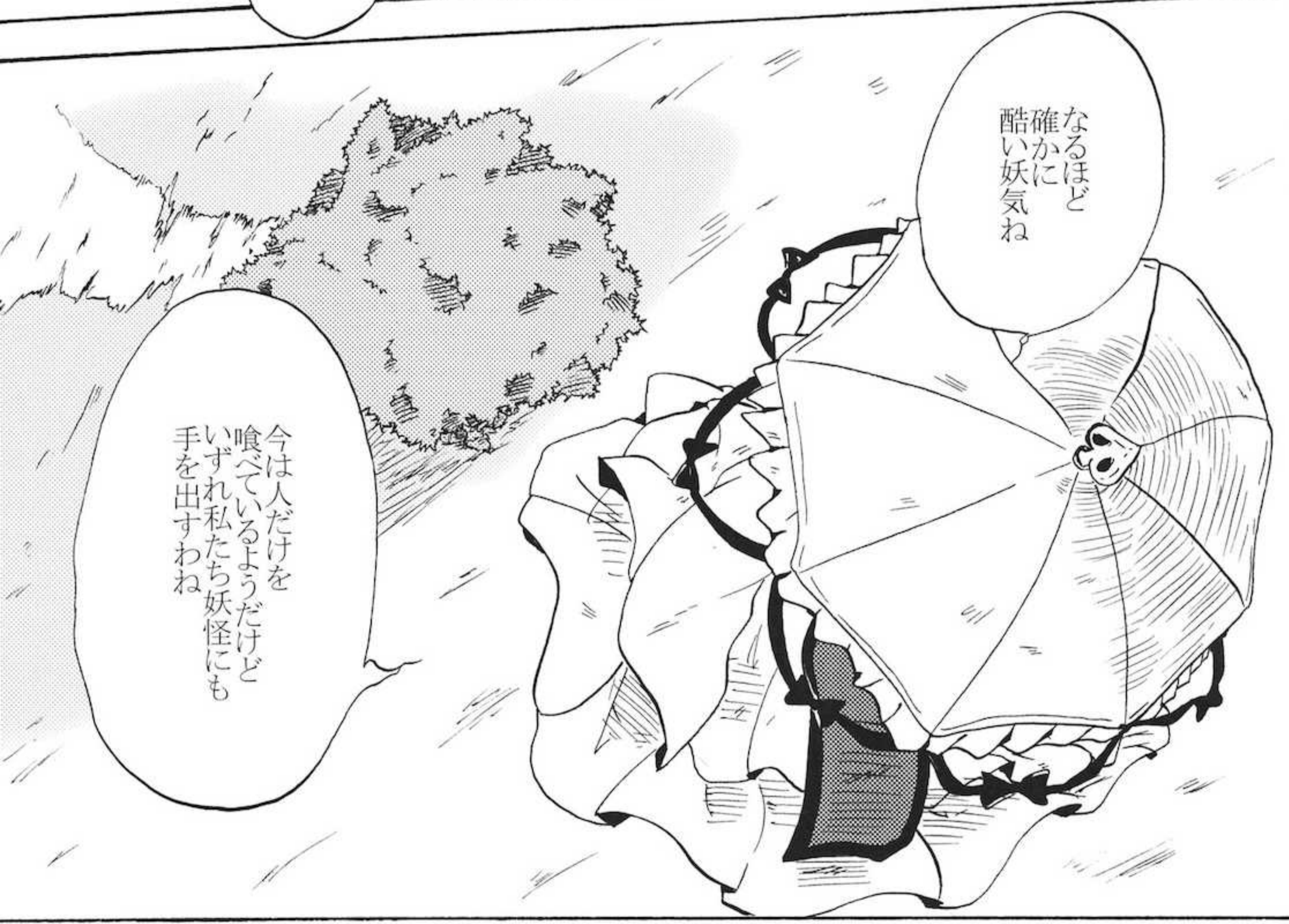
私は人を殺し
この桜を通じて
力を得ているのだと

A central black rectangular text box surrounded by four stylized butterflies. Two are on the left and two are on the right, all appearing to fly towards the center.

ソレは
今も
私の後ろを
舞っている

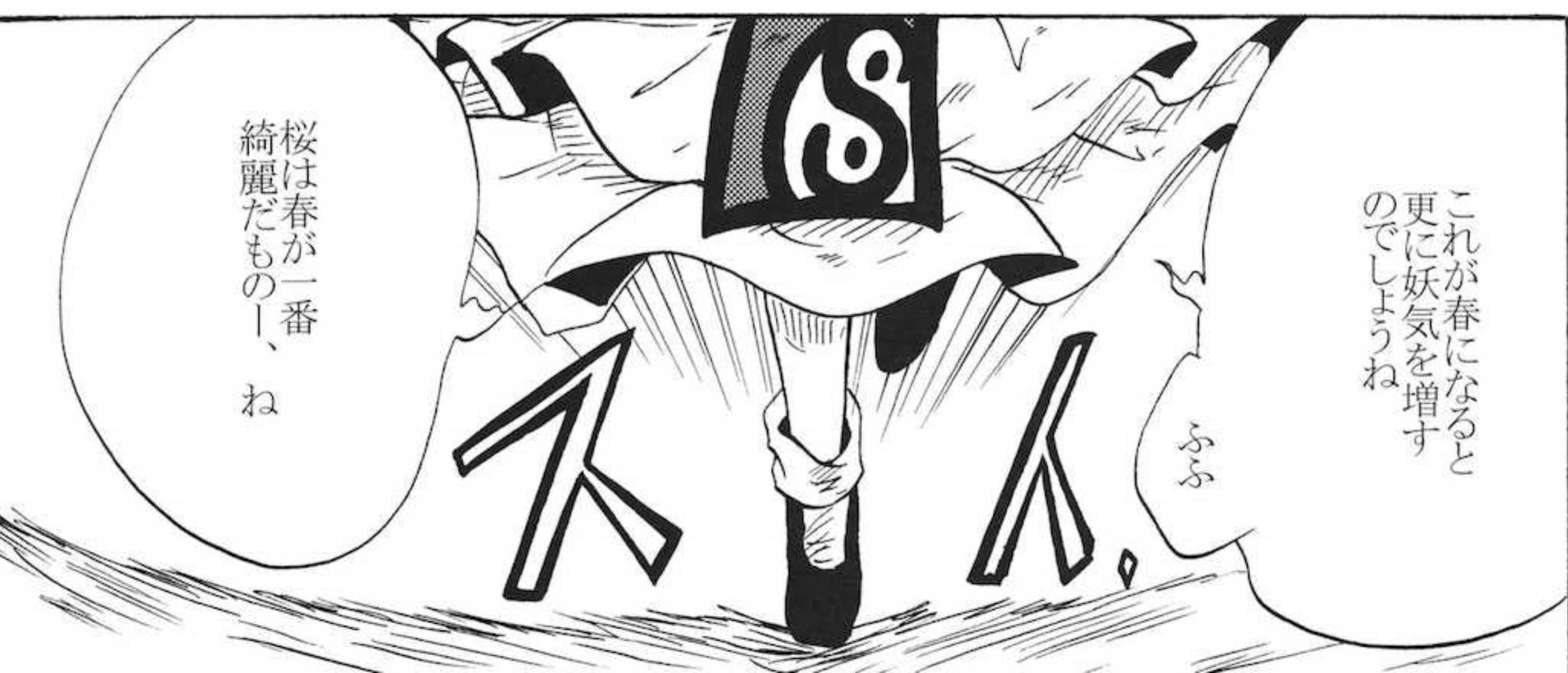


西行桜



なるほど
確かに
酷い妖気ね

今は人だけを
喰べているようだけど
いずれ私たち妖怪にも
手を出すわね



これが春になると
更に妖気を増す
のでしょね

桜は春が一番
綺麗なもの、ね



死ぬわよ



アヘウ、アヘウ

08



それとも……

貴女も
死にに来たのかしら？

でも
見たところ
《死蝶》は
舞っていないのね

…死蝶？

ああ
貴女の周りに
飛んでいるソレ？

とても綺麗ね
可愛いわ
ふふ

…貴女
コレが見えるの？

ええ

しゅ

とても小さくて

弱い…死蝶

じゅ…

—あめ。

動くことの出来ない
西行桜
この妖怪は
この人間を器として
いるのか

ひとつひとは
小さくても
これが人間の魂を貪り
喰べていくのね

そして最期は
この桜が
トドメを刺す、
と

すい

駄目!!



でも
心配は
御無用よ

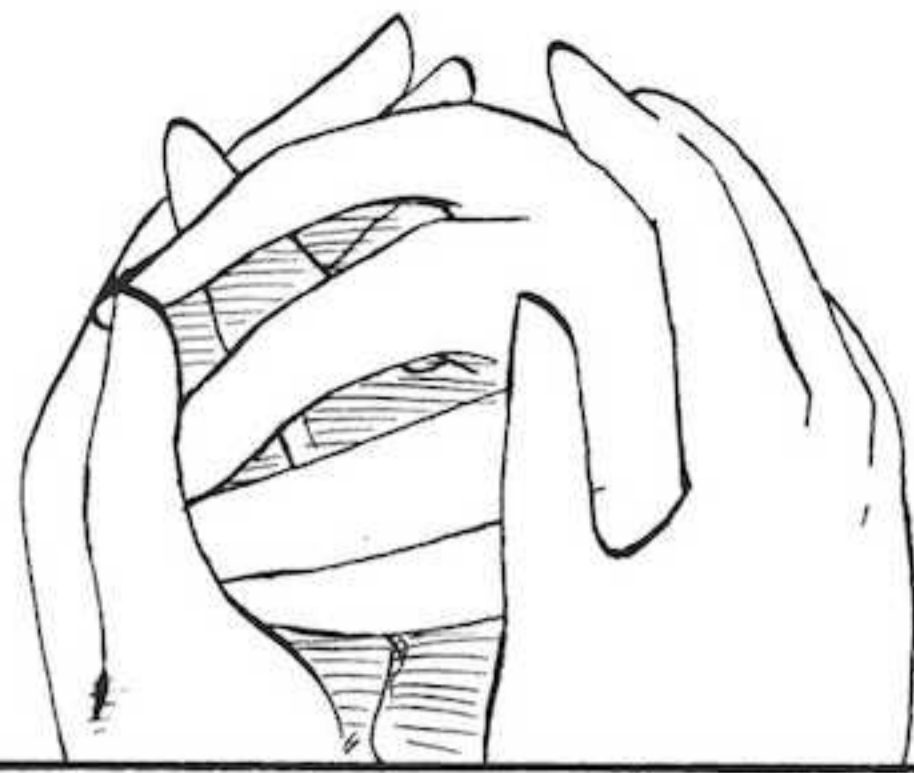
なんならー

!!?

《本体》である貴女に
触れてみせましょうかー?

だ…
駄目!

ん、



私に触れたら
本当に死…:



—え…

死んだのは

死蝶のほう…



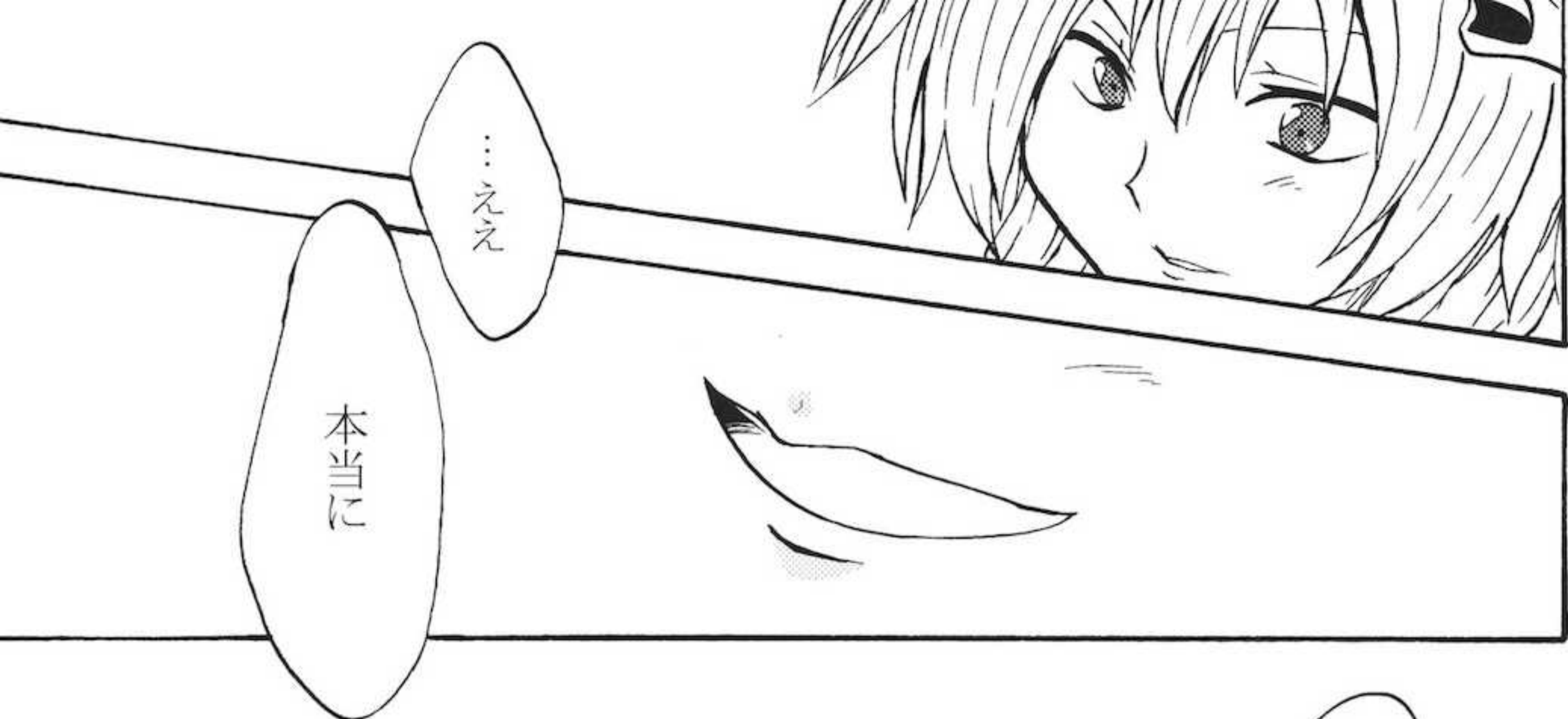
ほう、

生きてた

生き…てるの？

本…当…に？

アッ



本当に

ナカ ナカ



なあに?

ねえ
妖怪さん



封印する、とか?

…そうね

この桜は
どうやったたら
おとなしくなる
のかしら?

……
そんなことが
出来るの?



：ええ、できるわ
最も今無理だけど

この桜は
ただ封印した
だけでは
駄目なのよ

強い術にはそれ相応の
対価が必要
それもこの桜と同じか
それ以上の力を持つ
何かをね



：ただ封印しただけでは
また復活する
力の蓄積源である
この子がいる限り

だったら
この子を殺せば
いいのでは？

それも駄目
確かに一時的に力は弱まるが
この桜がいる限り器である人間は
必ずまた生まれる



ああ
全く嫌な悪循環ね
それでも
この桜が力をつける前に
封印しないとー

その《何か》は
私では駄目なの？

……え？

：確かにこの子は
この桜から力を受け、
同等な程の力をその身に
蓄えているかもしれない
上手くいくかもしれないが…

……怖くないの？

……

《死ぬ》
という意味で
私は言っているのよ

……怖いわ

でも

たくさんの方が
死んでしまうほうが
怖い

私のこの力で
今までたくさんの人を
殺してきた

この子のこの力で
今までたくさんの人を
殺してきた

この子も私もね
同じバケモノなのよ



でもね

それでもこの子は
私の父が愛した桜
父を慕った人たちが
愛した桜

私はこれ以上
この子をバケモノに
したくはない



は《バケモノ》

私一人で
十分



…貴女も
バケモノではないわ

なんて悲しげで
そして優しい顔を
するのだから



……ああ、この人間は

ふゅっ

だつて
こんな妖怪一匹も
殺せないのだから



：興味が沸いた
だからあと少しだけ
様子を見よう

：また、
来るわ



：それに
封印しようにも
術者がいないわ

もし
貴女という器で
封印の条件が良しとしても
術者がいなければ始まらない



：幽々子

西行寺、幽々子

サ

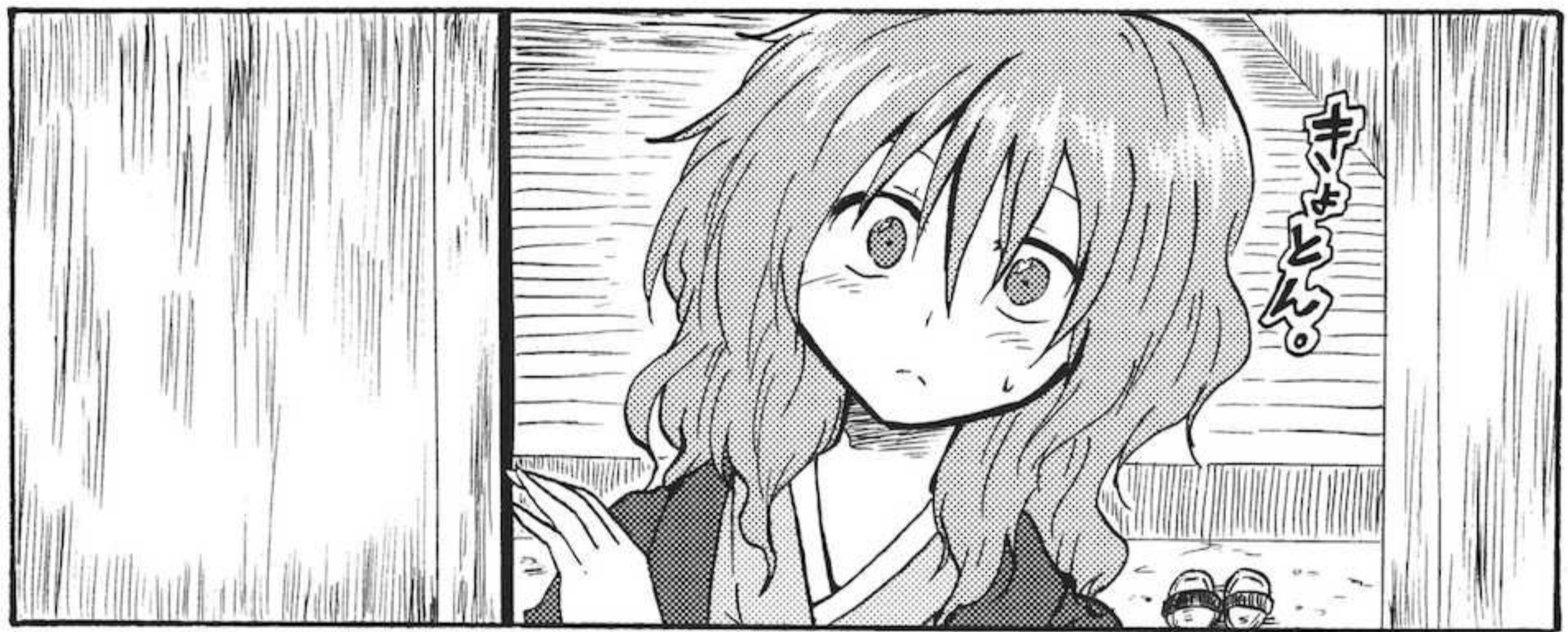


私は
八雲紫
貴女は？

↓



やつほー幽々子
《また》
来たわよ



ちゅん
どん



《また》：でしようね
貴女の周りにいる人間に
《また》は訪れないはず
だものね



ほ、本当に
《また》来てくれたの？

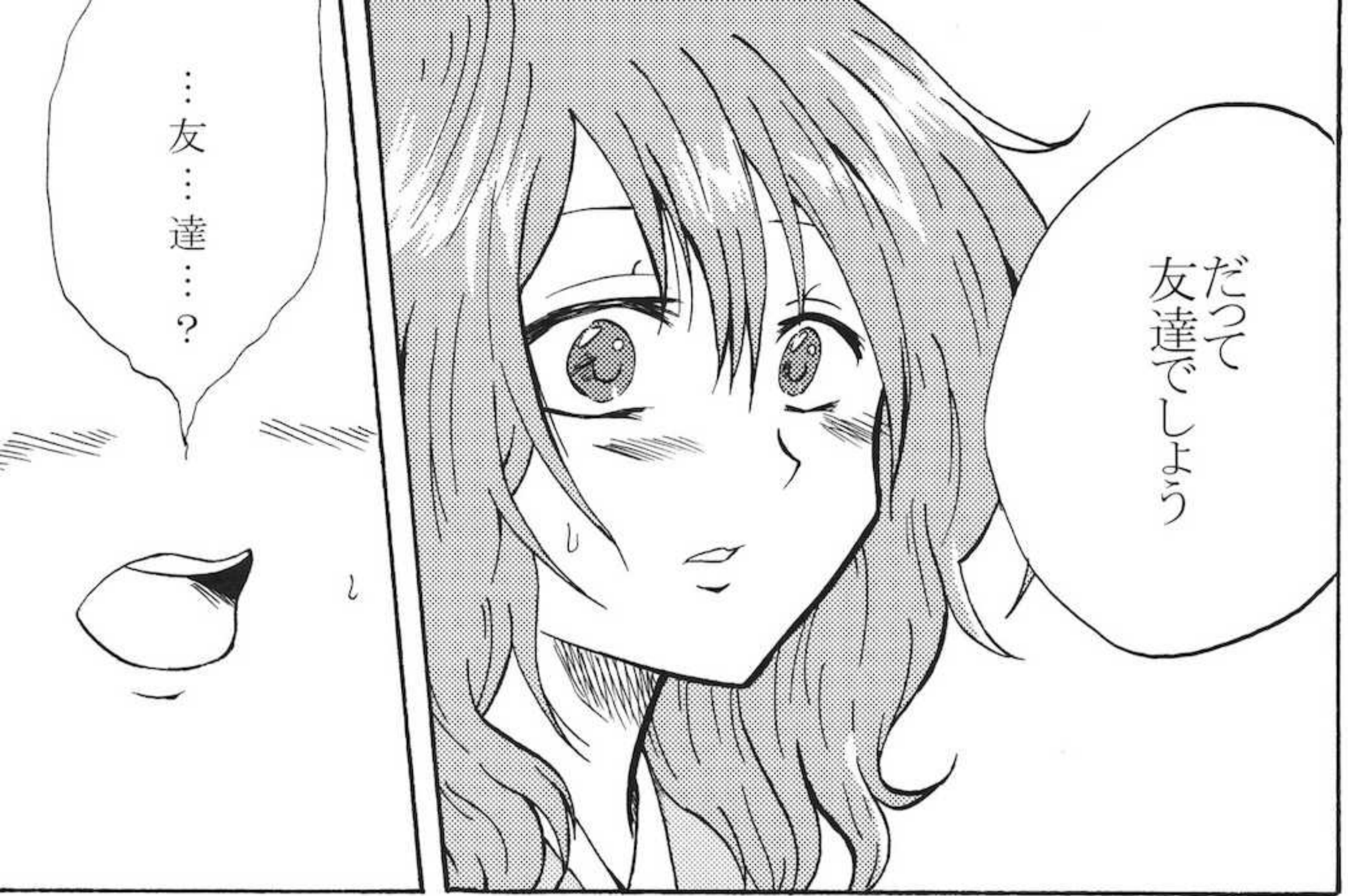
紫：さんが初めてよ
《また》来てくれたの



：紫さん
じゃなくて
紫でいいわよ？
私も呼び捨て
してるのだし

でも

いいわよ



：紫
ありがとう
紫が初めてよ

あ

は

《また》来てくれたのも
《何度も》私に触れて
くれたのも

《友達》に
なってくれたのも

ありがとう

とま

：ああ
なんて
綺麗な
笑顔：

さあ上がつて
お茶を淹れるわ

ええ

やはり
壊すには
勿体ない

と

くわん





私は
会うことは
許されないけど

それでもたまに西行寺の者が
食料や日用品を置きに来るのよ



…静か…ね

ええ

私と使用人の
二人しかいないから

パタン



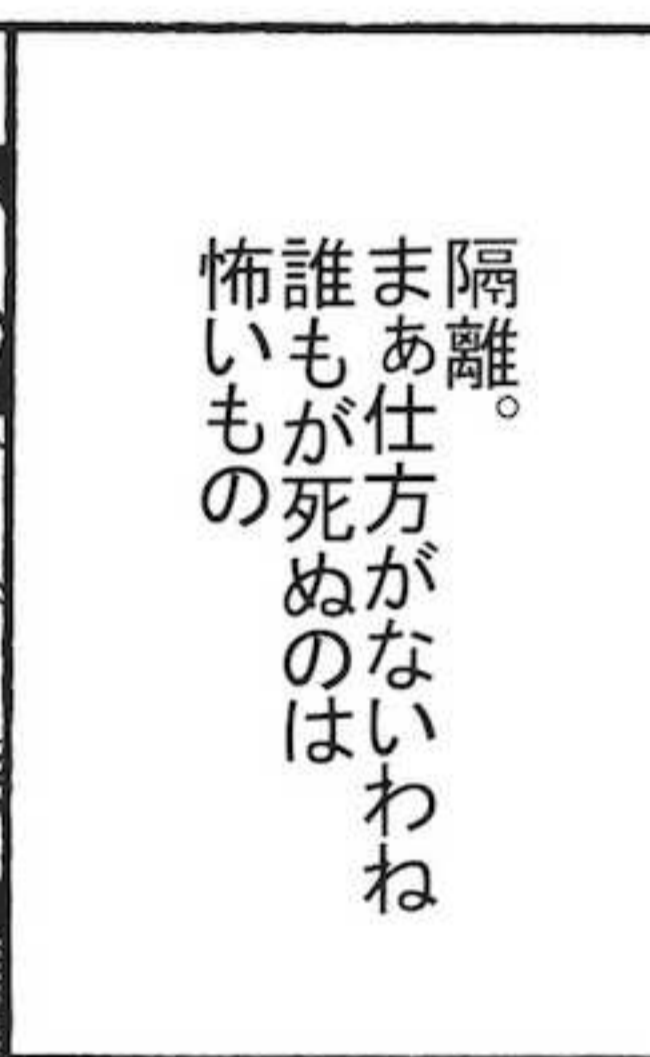
それでも傍にいる
人間はいるのか
上からの命か

ええ、紹介するわ

妖忌ー？



つて、使用人？



隔離。
まあ仕方がないわね
誰もが死ぬのは
怖いもの



ふふ

ふふ



…お呼びですか
お嬢様

わっ



……
そちらの方は？



キラ

…八雲…？



ホッ

こちらのお方は
八雲紫さんよ

紫
これが使用人の
魂魄妖忌

ふよ



ふよ

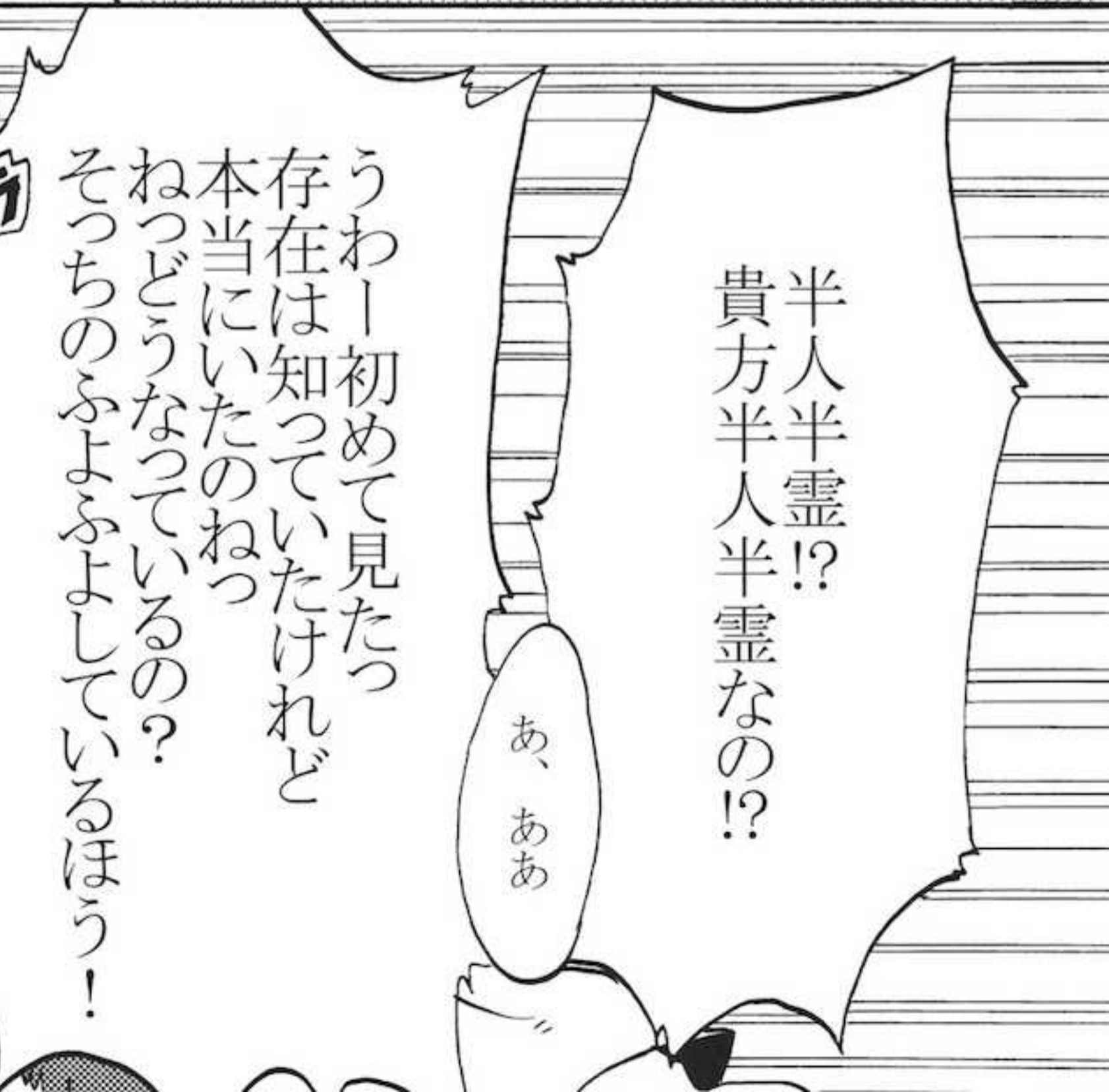
ふよ



キラキラ

だあつ
うるさいつ
おじよう…

お茶淹れて
来るわねー



半人半霊!?
貴方半人半霊なの!?

あ、ああ

うわー初めて見たつ
存在は知っていたけれど
本当にいたのねつ
ねつどうなっているの?
そつちのふよふよしているほう!

：なるほど
半人半霊ね

西行寺の者も
頭がいいじゃないの

半人半霊ならば
半分死んだようなもの
幽々子の力は
そう簡単には届かない

隔離するのに
いい監視役だこと

ついでに刀も扱えようだし
隙あらばあの娘を
殺そうという魂胆かしらね

違う

私は私の意思でムムムする

それよりも貴様
八雲：
大妖怪の八雲紫
だろうか？

あら、知っていたの

大妖怪がここに
何をしに来た

何が目的で
お嬢様に近付いた



あの方の
笑顔を奪ったら
私は貴様を許さない



私と同じ

…ああ
この者も



…安心なさい

私も
貴方と同じ理由で
ここにいますの

一緒に守りましょいっ？

あの娘の笑顔を

八雲紫は
それから毎日のように
幽々子のもとへ顔を見せた
そして季節は秋を迎え
そして、冬ー。

今年はまだ
お眠りに
なれないの
ですか？

…藍

ぎゅーん。

いつもなら
雪が積もる前には
お眠りに
なられているはずです

いいのよ
眠くないから

出掛けて
来るわ

それなのに
今年は…



また
あの人間のところへ
行かれるのですか!!

何故たった一人の人間に
そこまで入れ込む!
貴女らしくない!!



それに
あの人間は
危険だっ

紫様は
気付いていない
でしょうが
着実に紫様の
妖気は
吸われているっ!

27



このままでは確実に
紫様はあの人間に!
あの桜に喰われるっ!

何故：何故
殺さないっ

今しかないのでしょう!
じきに春を迎える!
そうなたらもう手遅れだ!
本当はわかっていらっしやる
のでしょう!?

「…藍」

「いつから式が主に意見を言えるようになった？」





「黙っている」

「式は主の
指示なしに動くな」

「お前は
私のすることを黙って
見ていればいい」

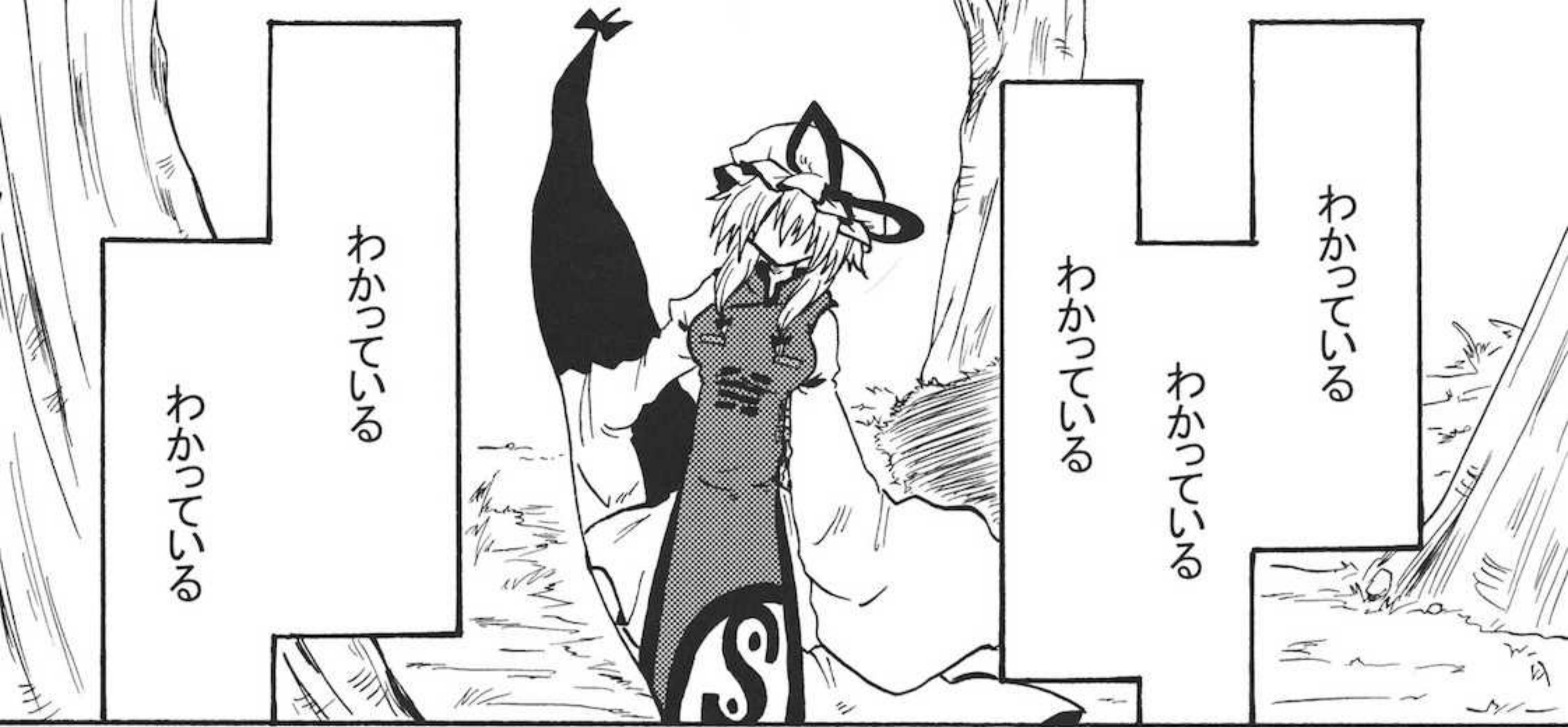
やぶあ



…はっ

申し訳ありません
紫様…

ガタ
ガタ



わかっている

わかっている

わかっている

わかっている

わかっている



わかっている

言われなくても全てわかっている
幽々子の力を抑えるためには
常時妖力を消費しなければ
ならない
今しかないのもわかっている
もうすぐ春だ
桜が咲く
その前に私は眠り
妖力を蓄えなければいけないことも
全てわかっている！



ギリ

わかっけていても出来ない！

何度考えても
あの桜を封印するには
あの子の死を避けることが
出来ない



あの子の魂は
それだけ強く深く
あの桜と結びついている！

…はっ

聞いて呆れるわね
妖怪のくせに
人間に必死に
なつて…

…妖怪…
あの桜も妖怪ならば
同じ気持ちを抱いたりするのだろうか



そして

季節は春…

お花見？



…大丈夫よ

人間と妖怪は
共存出来るはず
なのだから

……
紫

人間を
喰べることとしか
していなかった
あの桜にも
教えてあげたい
人間は素敵な
生き物だと

そして
少し早い
二人でお花見をした

33

二人だけのささやかな
花見だが
とても楽しく
時間は過ぎていった

桜もまた
人間そして妖怪と
過ごすことが
楽しいことだと
知った

楽しくて楽しくて
嬉しくて…
満開になった桜は

より一層
多くの人間を…
魂を集めた



酷いな...
これは...

独りでも
寂しくなはいよいよ

桜はいつまでも満開



幽々子!!

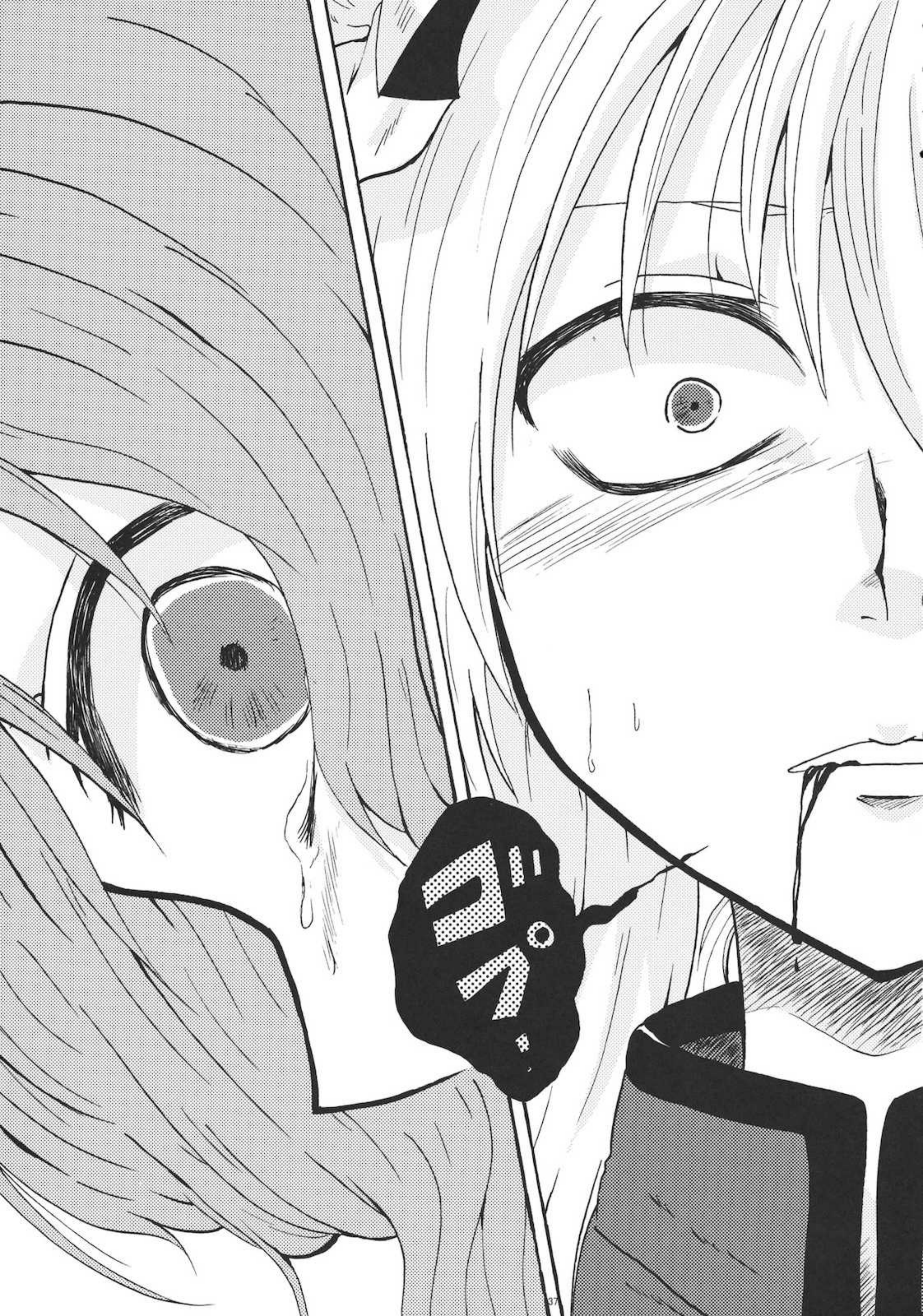


待ってて…
今、
楽にして…



……紫……？

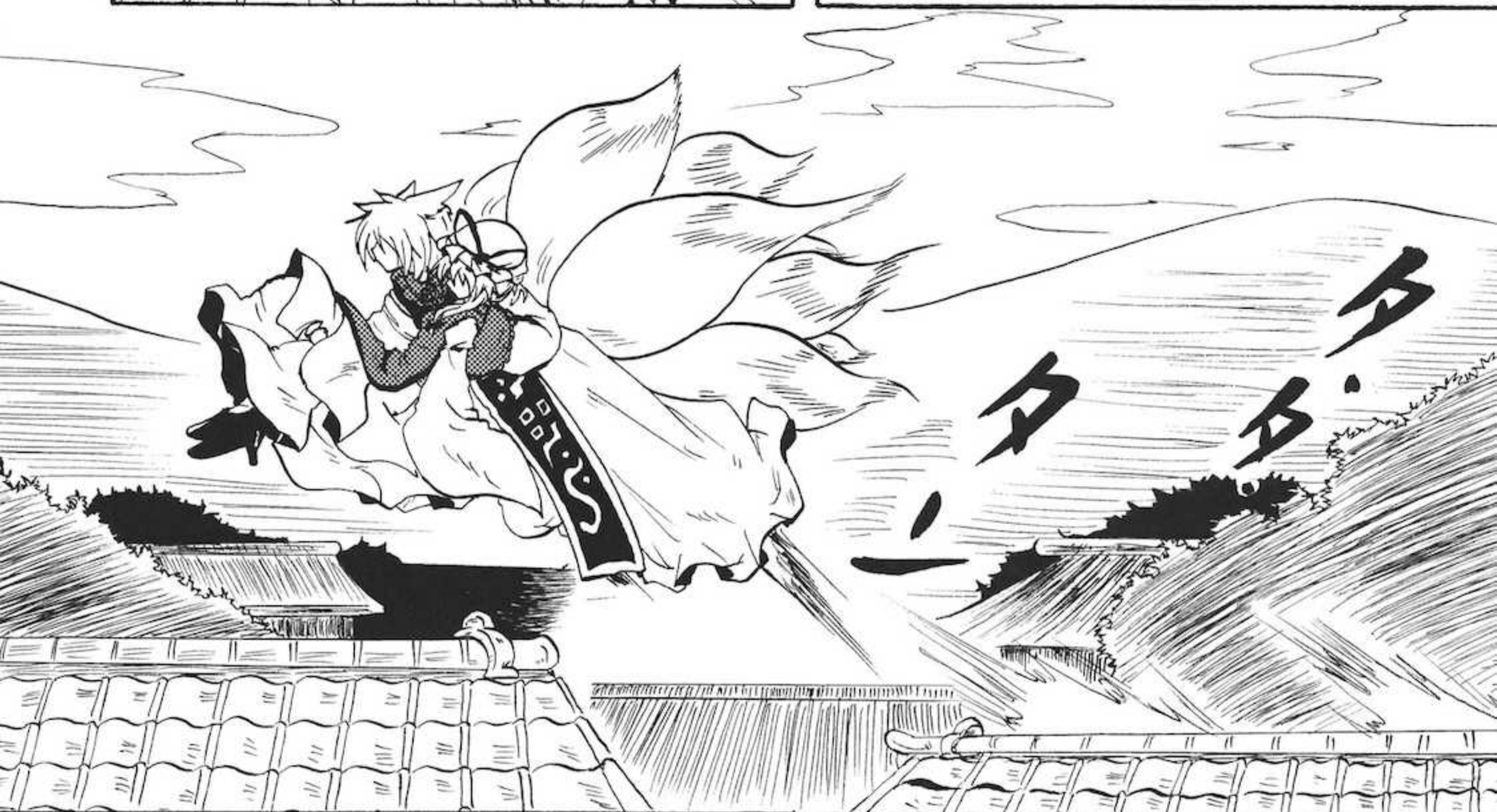




37

しまっ…
油断した…
これほどまでに
強大になっっている
とは…

紫様!!



…藍

何故来た

貴女の式
だからです

放せつ
私は……！

「幽々子のもとへ戻って」？

一体何をやる気ですか？

少しでもあの死蝶を殺してやるのですか？
それであの人間を少しでも生き永らえて
やるうとでもいうのですか？
それで救われるとでも思っているのですか？

救われないことくらい
わかつているはずだ！！

何をすべきかも
わかつている
はずだ！！

でも、
でも！
私は
あの子を……！

殺すこと
なんて！
できない……！

……本当にあの子が人間が大切なならば
殺せないくらい大切なならば……！！

殺してでも救ってあげてくたせう……！！

友達

初めての…友達

だったら、ぶっすよ。



私は甘えていた
紫の優しさに
紫の強さに

お呼びですか
お嬢様

妖忌…

傷つける前に
私は
決断すべきだった

貴方
短刀を
持っていたわね

寄越しなさい

短刀など
持っていない

持っていたとしても
渡せません

寄越しなさい

嘘

懐にいつも
入っているでしょう？

渡せません

寄越しなさい
妖忌

寄越せと言っているのよ





：西行妖：いえ
西行桜：
綺麗な満開ね

ただ
貴方は
綺麗だった
だけなのに

私たち人間が
貴方の下で死んだがために
こうなってしまったのよね

そう
貴方は綺麗過ぎた
綺麗が故に皆
貴方に惹かれてしまった

貴方は
独りぼっちで
寂しくて
人を呼んでいた
だけなのよね

独りの寂しさは
わかるわ
私も、
独りだったから

でも大丈夫
今度は独りぼっちに
させないから

もうすぐ：
きつと来るわ
貴方を封印する人

あわ



私に紫がいたように
貴方には私がいてあげる



妖忌?

八雲っ!



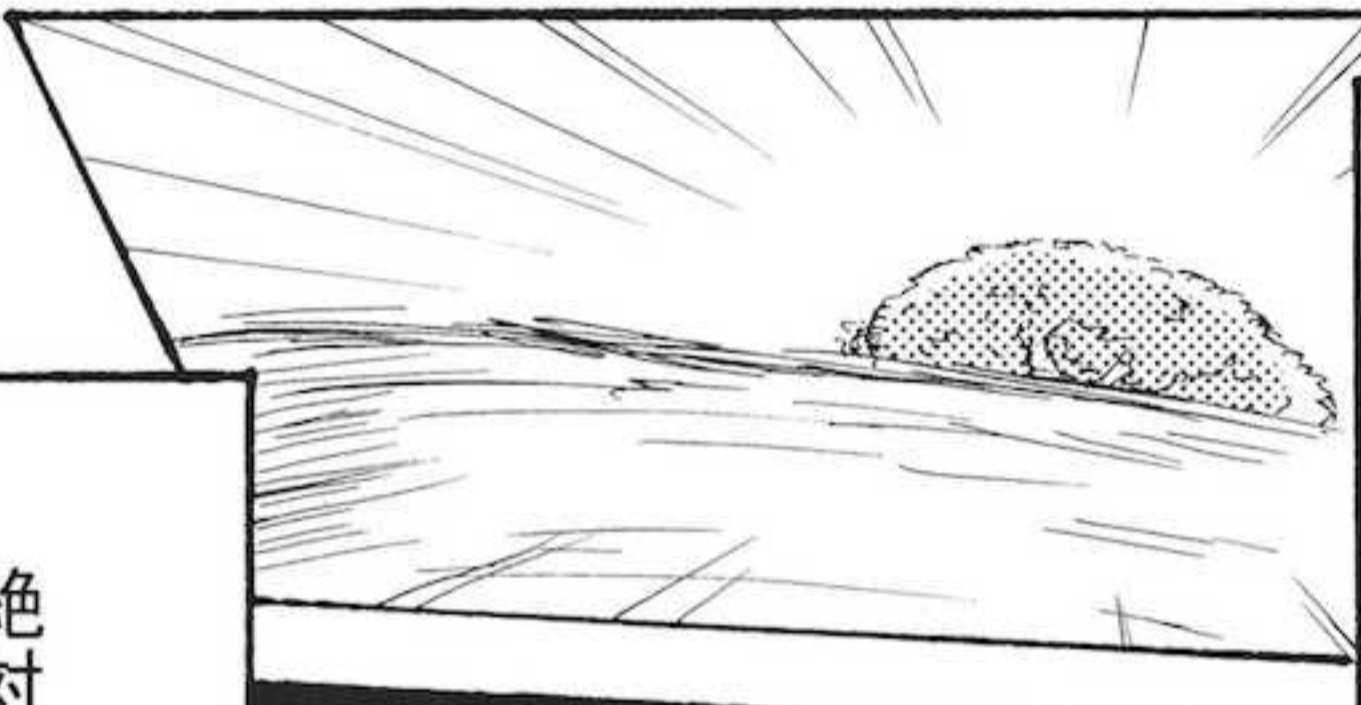
お嬢様はきつと
西行妖の下だつ!!

死ぬ気だつ
あのお方はっ!!



死ぬ？

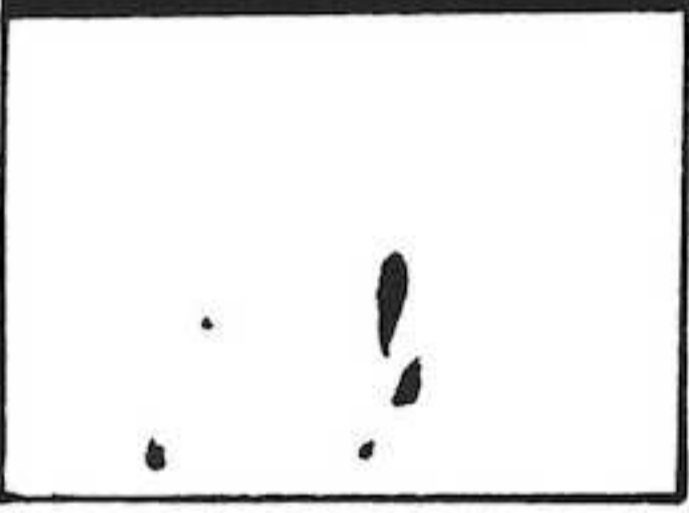
紫…



何故自分から？

絶対来るわよね
だって…

わかっていたの？



私が
貴女と

貴女が
私と

この桜を封印するー





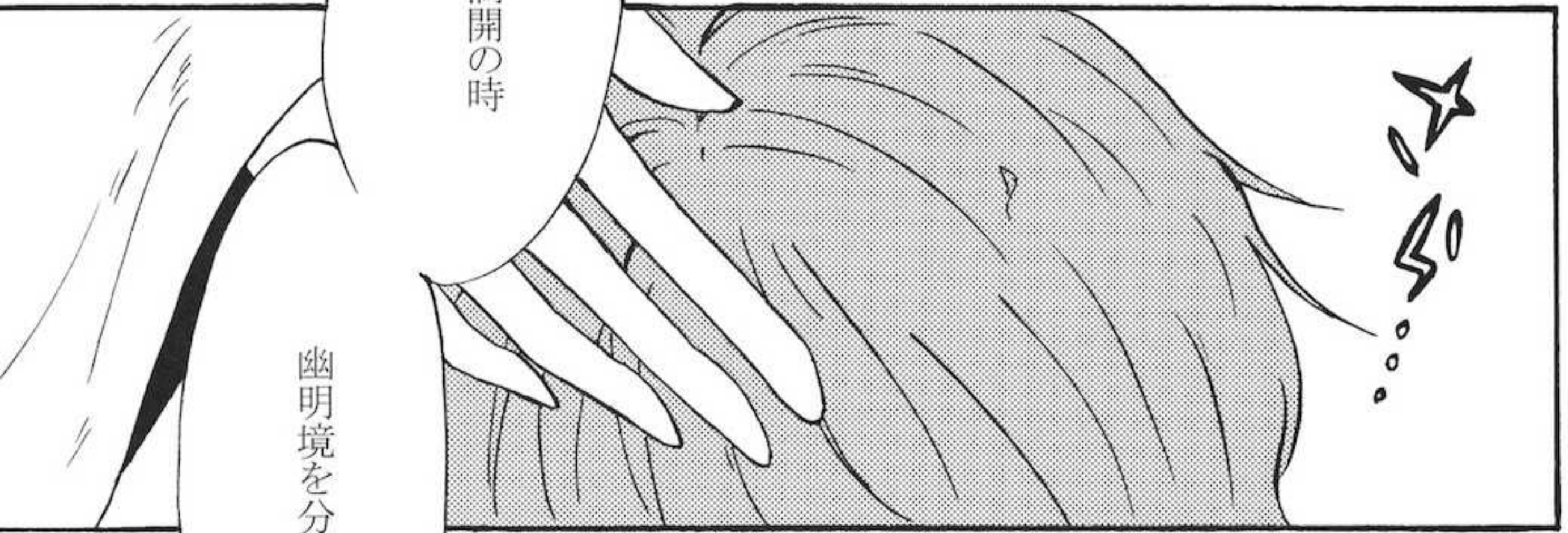
：死んだのね
幽々子：

これで…
やつと西行妖を
封印出来るわ…



…富士見の娘

西行妖満開の時



幽冥境を分かつ



その魂
白玉楼で安らむ様…



西行妖の花を
封印し
これを持つて
結界とする



一。紫。

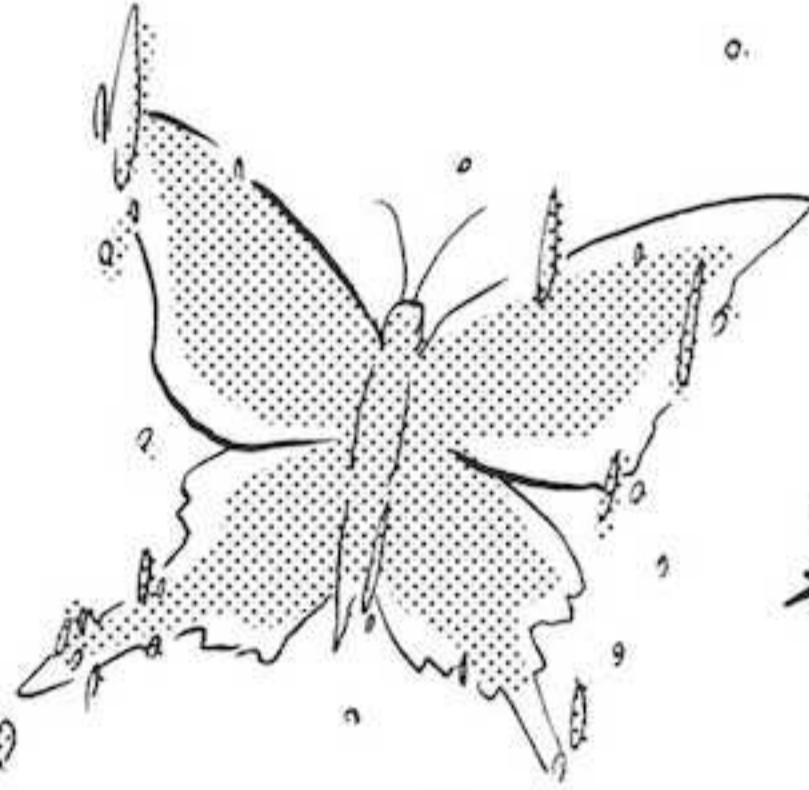
…願うなら…

ほ。

う。

二度と苦しみを…

ほ。



か。

味わうことの…
無い様…

ふ。





永久に...

転生することを忘れ...

海へ



さよならなら
幽々子

—永遠に会うことはないけれど。

願わくは
貴女が永遠に
笑顔でいてくれますように—。





あとがき

初めましての方は初めまして。こんにちはの方はこんにちは。
サークル「あんずの木」のうにゃ吉です。
ここまでご覧になってくださりありがとうございました！

ずっとずっと描きたかったゆゆ様生前本です。
楽しんで頂けましたでしょうか…？

せっかく出た妖忌が活躍していないという残念な感じです（笑）
いつか描く（かもしれない）亡霊となったゆゆ様とゆかりんの再会のお話では
活躍する（かも）しれません。いや、しない可能性が高いです。妖忌好きですよ！

今回のお話では藍様はまだ「八雲」の姓を貰っていません。
今回をきっかけに貰うことになる…とここで補足しておきます。

では、またどこかでお会い出来たら幸いです。
どうもありがとうございました！


2012. 8 うにゃ吉

東方 project fanbook

発行元：あんずの木
発行者：うにゃ吉
発行日：2012年8月11日
印刷：有限会社金沢印刷様

サイト：<http://www17.plala.or.jp/unya/>
pixivID：9647

上海アリス幻楽団様：<http://www16.big.or.jp/~zun/>

A detailed illustration of a young girl with long, straight yellow hair and fox-like ears. She has a serious expression and yellow eyes. She is wearing a purple garment with a blue collar and a purple mask with a large red eye. The background is a soft purple and blue gradient with falling petals. On the left, parts of other characters are visible: a red ribbon and a white mask with a black eye.

桜と蝶と貴女

東方 project fanbook その17

あんずの本
うにゃ吉